

北上市出資法人等協働評価シート(基本情報確認用)

【社団法人・財団法人】

■1. 法人の概要

法人名称	一般財団法人日本現代詩歌文学館運営協会	担当部課名	まちづくり部生涯学習文化課
代表者名	理事長 篠 弘	設立年月日	平成26年3月13日
所在地	北上市本石町2丁目5-60	電話番号	0197-65-1728
設立目的	我が国の詩、短歌、俳句及び川柳等に関する各種資料を収集、保存して、我が国内外の文学関係者等の利用に供することにより、文学の振興と文化の発展に寄与することを目的とする。		
事業内容	1、日本現代詩歌文学館等の管理運営に関すること。 2、詩歌資料の収集、保存、閲覧及び展示、出版に関すること。 3、詩歌資料の調査及び研究に関すること。 4、文化振興及び地域振興に関するイベント等の企画及び実施に関すること。 5、前各号に掲げる事業に関する情報及び資料の収集並びに提供に関すること。 6、その他この法人の目的を達成するために必要な事業。		

■2. 設立の経緯と市の関与

設立の経緯と市の関与(設立時からこれまでの経緯)	<p>1. (管理運営団体の設立)昭和59年4月1日「北上市日本現代詩歌文学館条例」施行。平成2年5月20日「日本現代詩歌文学館」開館。開館に先立ち、詩歌文学館の管理運営体制が検討され、短詩型文学専門の文学館としての特性に見合う全国サービスを展望し、その専門性を重視して、「適正な公的団体に管理委託する」ことが確認され、平成2年3月29日に運営委託団体として「日本現代詩歌文学館運営協会(理事長高橋盛吉北上市長:以降歴代市長が理事長に就任)」が設立された。</p> <p>2. (非公募・政策遂行型施設の指定管理者)第1回指定管理(H18.4-H23.3)、第2回指定管理(H23.4-H26.3)、第3回指定管理(H26.4-H31.3)</p> <p>3. (法人化)H26.4.1に任意団体から一般財団法人に移行(理事長篠弘)。法人の設立者北上市長高橋敏彦、設立者が拠出する財産及びその価額 金銭 10,000,000円</p>
--------------------------	---

■3. 資本金等の状況

H27.3.31現在

資本金(基本財産)	10,000 千円	うち市出資額(出えん額)	10,000 千円	市出資等割合	100.0 %
その他の主な出資者(出えん者)	出資者(出えん者)の名称		出資等金額	出資等割合	
	①		千円	%	
	②		千円	%	
	③		千円	%	

■4. 役職員の状況

H27.3.31現在

役員数	常勤役員			非常勤役員			合計
	うち市OB	うち市派遣		うち市OB	うち市派遣		
	0	0	0	9	0	2	9 人
職員数	常勤職員			非常勤・臨時職員			合計
	うち市OB	うち市派遣		うち市OB	うち市派遣		
	5	1	2	14	0	0	19 人
役員の平均年齢		69 才		常勤職員の平均年齢		42 才	

■5. 情報公開の状況

情報公開規定の有無	<input type="checkbox"/> 有り	<input checked="" type="checkbox"/> 無し	ホームページの有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有り	<input type="checkbox"/> 無し
情報開示の方法	年3回館報、ホームページ、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第129条及び定款第8条第3項に基づく公開				
ホームページアドレス	URL http://www.shiikabun.jp				
ホームページでの経営状況等情報提供内容					
<input type="checkbox"/> 定款	<input type="checkbox"/> 役員名簿	<input checked="" type="checkbox"/> 事業報告	<input type="checkbox"/> 財務諸表		

北上市出資法人等協働評価シート(基本情報確認用)

【社団法人・財団法人】

単位:千円

■6. 財務状況

【正味財産増減計算書】	H25年度	H26年度	H27年度	備考
経常収益		109,014	105,360	
うち基本財産運用益		2	2	
うち事業収益		108,246	104,072	
経常費用		108,164	104,813	
うち事業費		107,648	15,307	
うち管理費		516	574	
うち人件費		51,212	47,965	
当期経常増減額		850	547	
経常外収益		0	0	
経常外費用		0	0	
当期経常外増減額		0	0	
税引前当期一般正味財産増減額		850	547	
法人税等		0	0	
当期一般正味財産増減額		850	547	
当期指定正味財産増減額		0	0	
正味財産期末残高		850	1,397	
【貸借対照表】	H25年度	H26年度	H27年度	備考
資産合計		50,123	51,507	
負債合計		39,273	40,111	
正味財産合計		10,850	11,396	
うち指定正味財産		10,000	10,000	
【財務指標】	H25年度	H26年度	H27年度	
自己資本比率 (正味財産合計÷総資産)×100			21.6%	22.1%
借入金依存度 (長短期借入金÷総資産)×100				
流動比率 (流動資産÷流動負債)×100				
総資本経常利益率 (経常利益÷総資産)×100			1.7%	1.1%
総資本回転率 (売上高÷総資産)×100			216.0%	202.1%
人件費比率 (人件費÷経常経費)×100			47.3%	45.8%
公益事業比率 (公益事業÷経常費用)×100			-	-

■7. 市の財政的関与の状況

単位:千円

項目	H25年度	H26年度	H27年度	備考
補助金・交付金		0	0	
委託料		121,659	121,659	
出資金(追加額)		0	0	
その他(使用料等)		826	896	
合計		122,485	122,555	
損失補償契約に係る債務残高				
貸付金残高				
指定管理施設の名称	日本現代詩歌文学館			

北上市出資法人等協働評価シート(基本情報確認用)

【社団法人・財団法人】

■8. 職員研修の実施状況

研修の種類及び名称	当該年度の受講者数		
	H25年度	H26年度	H27年度
全国文学館協議会総務情報部会		2	2
館内学芸員定例研修会(毎月第4水曜日)		6	6
文化財防虫防菌処理実務研修		1	0
著作権講習		0	1

■9. 設立目的に沿った事業の実施に有効な資格の取得状況

資格の種類及び名称	当該年度末の有資格者数		
	H25年度	H26年度	H27年度
丙種危険物取扱者			1

■10. 事業の実績概要

事業名称	活動実績・成果
第30回詩歌文学館賞贈賞式	(実績)平成27年5月23日に贈賞式・パネルディスカッション・記念講演を開催。参加者240名。(成果)前年刊行された詩・短歌・俳句の最も優れた作品集を選び毎年顕彰(3名作品)、詩歌文学館賞は歴史を重ね短詩型文学においては権威の高いものとなっている。なお、詩歌文学館賞の開催にあたっては、設立当初より(公財)一ツ橋総合財団の全面的な支援をいただいている。
平成27年度常設展「いまを生きる詩歌」	(実績)平成27年3月17日から平成28年3月13日まで「いまを生きる詩歌」をテーマに常設展開催。55作品展示。(成果)戦後70年に際し、詩歌人は如何なる実作活動をしていくべきか、明日への詩歌を考え合う貴重な場を提供できた。
第12回俳句まつり	(実績)平成27年11月14日に小・中・高校生を対象に公募した俳句の表彰式を開催。市内外31校5,470句応募。(成果)小・中・高校生に日本の短詩型文学の一つである俳句の創作機会を提供し、普及に貢献できた。
寄贈資料受入整理	(実績)平成27年度の資料整理状況は、図録・雑誌37,892冊、特別資料1,816点計29,708点を資料登録した。(成果)平成27年度末現在で累計1,323,211点の所蔵資料。全国の詩歌人の財産として、特別資料を除き常時公開しうる状況にある。ホームページからも検索可能。

北上市出資法人等協働評価シート(基本情報確認用)

【社団法人・財団法人】

■11. 市の施策との関係(これまでの活用効果及び今後の市の方針)

市の施策	北上市教育振興基本計画に基づき、詩歌文学館を通じて市の芸術文化の振興に努め、芸術文化のまちづくりを推進する。
これまでの活用効果	北上市の芸術文化の振興のため、文学碑めぐりを通じて市内の文学碑の活用に努めるとともに、毎年開かれる「詩歌文学館賞」は、その存在が日本の現代詩歌の殿堂としての価値を高め、全国に情報発信している。また、入門講座やまつりなど、詩歌を身近なものとして捉えるような事業の展開を行っている。建物は市の中心部にある詩歌の森公園の中にあり、市立図書館とも隣接して、詩歌だけでなく、ホール利用も市民の芸術文化の振興の一翼を担っている。
現在の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・詩歌文学館を身近なものとして捉えることが市民に浸透しおらず、全国唯一の詩歌の殿堂という意味合いが伝わりきれていない。 ・開館から20年以上経過し、建物や設備等に不具合が生じてきている。
今後の市の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き市民を対象とした講座や事業を開催しながら、詩歌のまちづくりの一端を担ってほしい。 ・建物や設備の修繕等については緊密に連絡を取り合いながら対処し、中・長期的なものに関しては市が実施する全体的な資産マネジメントの中で長寿命化計画を策定し対応する。